

巻頭言 ～中津川市民としての誇り～

地球温暖化の抑制に向けた温室効果ガス削減の取り組みは、21世紀の人類に共通の課題です。わが国は、「2050年までに世界で温室効果ガス排出量を半減させる」という長期ビジョンを掲げ、さまざまな取り組みを展開していますが、私たちが誇りを持って未来の子供たちに受け継いでいける「持続可能な社会」の実現のためには、国、地域、企業、家庭、個人を含めた国民の全員参加が不可欠です。

こうした中で、CO₂を排出しない自然エネルギー（再生可能エネルギー）の重要性に対する認識が高まりつつありますが、自然エネルギーの活用・普及のためには、気候風土や生活環境など、地域の特性に応じたきめ細かな施策が必要であると同時に、そこに暮らしながら地域を守り、育み、支えてきた多くの人々の知恵と情熱が必要とされています。

中津川市は、南に恵那山、北に小秀山、東には木曾駒ヶ岳に連なる雄大な自然を背景に、それぞれの地域の人々が守り育ててきた水と緑に恵まれた、自然豊かな都市です。この「小水力発電開発基本構想」は、中津川の豊かな自然の恵みを活かしながら持続可能な地域社会を実現するために、「中津川市環境基本計画」で決定された新エネルギー導入事業としての小水力発電開発について、その基本的な考え方をまとめたものです。

この基本構想を出発点として、市民の方々、事業者、市が「全市環境ISO運動」の精神で連携しながら、地球温暖化の抑制という21世紀の大きなテーマに対して、時代のリーダーシップ役を果たし、全国に向けて中津川市民の誇りとなる小水力発電施設が実現することを念願しております。

平成21年3月

中津川市長 **大山耕二**

目 次

巻頭言

序章

第1章 小水力発電の現状、意義と重要性

[1] 水力発電の現状

[2] 水力発電の意義

[3] 中津川市における小水力発電の意義と可能性

第2章 小水力発電に関する取組みの概要

[1] 小水力発電の概要

[2] 政府の取組み

[3] 中津川市の取組み

第3章 基本構想

[1] 基本的な考え方

[2] 基本構想の位置づけ

第4章 開発構想

[1] 開発地点

[2] 開発主体の考え方

[3] 中津川市が主体となって開発する水力発電計画

[4] 市民や事業所が主体となって開発する水力発電計画

第5章 推進体制

[1] 市民・事業所との協働体制（全市環境 ISO 運動）

[2] 市民委員会

[3] 事業実施に当たっての留意事項

[4] フォローアップ

結び